

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔消化器・一般外科〕

指標名

ロボット支援下手術への取り組み

目標・ゴール

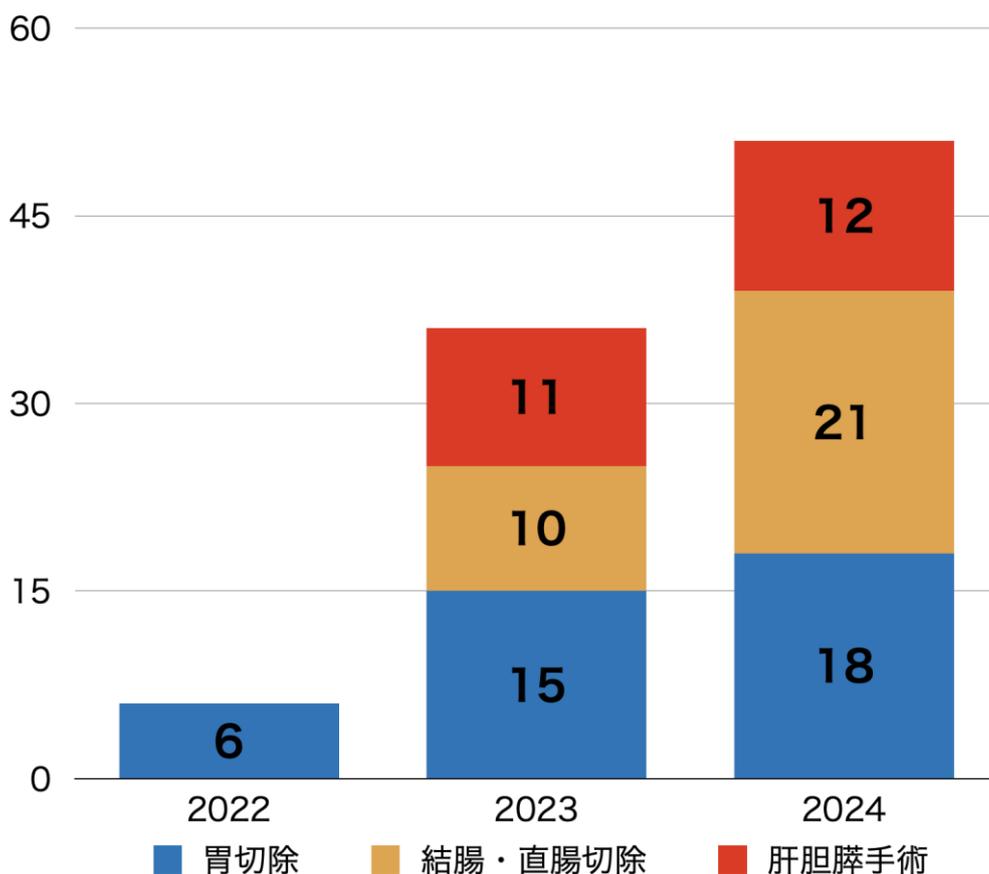
ロボット支援下手術の症例数、該当術式の増加

目標・ゴール達成による効果

ロボット支援下手術は、3D画像や手振れ防止機能、多関節機能など、その潜在的なメリットから普及が進んでおり、各学会での取り組みおよび海外での実績から、今後更なる発展が期待されている。ロボット支援下手術に対する城南地区を中心とする地域医療圏ニーズは高いと思われる。患者獲得による症例数・医業収入の増加に寄与するものと思われる。

目標・ゴールに対する成果の状況

ロボット支援下手術件数の推移



2022年：6件（胃切除）

2023年：36例（胃切除、直腸切除、肝切除）

2024年：51件（胃切除、結腸・直腸切除、肝切除、膵切除）

目標・ゴール達成度

- S : 大幅に目標を上回った
- A⁺ : 目標を多少上回って達成
- A : 目標を達成
- B⁺ : 目標を少し下回った
- B : 目標を下回った
- C : 目標を大幅に下回った
- : 外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

2024年度は新たにロボット支援下膵切除および結腸切除を開始し、消化器外科における全ての臓器へロボット支援下手術を適応拡大した。対

象疾患の増加により目標は達成できたが、限られた手術枠の中でさらに症例数を増加するためには、手術室の整備やコメディカルスタッフとの連携が不可欠であり本年度の課題としたい。